



山本正夫著

指導
細說

低學年の唱歌教育

人文書房版



〔鑑賞〕 祝祭日の様子を問ふて、此の歌がその有様をよく表し得てゐるか否かを問ひ等して兒童の鑑賞の頭を養ふ。

御祝ひ日

は長調四分の四拍子

5-3	5		6	6	7	6	5		i	.i	6	i		5	3	5	0		
一、	ケ	フ	ハ	オ	イ	ハ	ヒ	ビ	ド	チ	ラ	ノ	マ	ヘ	モ				
二、	け	ふ	は	お	ま	つ	り	び	ど	よ	ら	の	い	へ	も				

5-3	5		6	6	7	6	5		i	.i	6	5		i	-	0		
モ	ニ		タ	テ	タ	ル	ヒ	ノ	マ	ル	ノ							
の	に		た	て	た	る	ひ	の	ま	る	の							

2-1	2		6	i	6	5	3	1		2	5	2	3		1	-	0	
ハ	タ		フ	ク	カ	ゼ	ニ	ヒ		ラ	タ	ラ	バ		ラ			
は	た		ふ	く	か	ぜ	に	ひ		ら	た	ら	ば		ら			

〔歌詞〕 御祝ひ日 犬童球溪作歌

一、今日はお祝ひ日

どちらの家も、

門にたてたる日の丸の

旗は吹く風にひらく。

二、今日はお祭り日

どちらの家も、

軒に立てたる日の丸の

旗は吹く風にばたく。

二、ユキダルマ (山本正夫作曲) 教授豫定三時間

〔要旨〕 兒童の世界に於ける自然と人工、創作と鑑賞、其の間のユーモアを取扱つたものである。

〔説話〕 今日雪達磨の唱歌を教へてあげませう。それはく面白く歌ですよ。眞白な雪。その塊の達磨さん。何々さんの達磨さんは目に何を入れましたか。——タドン——随分大きなお目々ですね。——そうですか。お日様に照らされて、やせてタドンの目が落ちたんですか。それは面白い。ではその可愛らしい雪達磨さんを歌つてやりませう。

〔教授法〕 單式口授法で先づ歌詞を知らせる。次に曲節を附して一回範唱し「面白いでせう、さあ」とて一樂句づつ範唱して隨唱させる。教師「アノニハサキノ」兒童「アノニハサキノ」教師「ユキダルマ」兒童「ユキダルマ」の如くにして進む。勿論困難な所は、教師「タタタタタ」兒童「タタタタタ」教師「チンチンチンチンチン」兒童「チンチンチンチンチン」の如く、手をかへ品をかへて徹底的に教授する。優秀兒は他生の三四倍も早く覺えるから、それらを利用して、欣々として倦まずたゆまず繰り返して教へる。熱心ならば繰り返して歌へば歌ふ程、妙味津々として湧き、其停止する所を知らざるに至る筈である。その間決して小言がましき事は萬一にも無きを要とする。實に教師自身が先づ面白くてたまらぬ筈のものである。

〔曲節の注意〕 ハ長調四分の四拍子、全曲輕快に、鮮明に、同情を以て終始すべきである。それには張り上げる聲を避け、附點音符の所を最も明快に歌はせる事が肝要事である。


第三樂部第四樂節は、繰返へして歌ふ。歌詞の「ソレニ」が、曲節の繰返へしと實にピッタリして居て愉快極りな

つ果つべくとも思はれなかつた。「數十の時計が同時に動くのは時計屋だけである」の警句、大人が考へては何でもないことであるが、子供の考へとして、誠に想像的創作的である。げにや「藍より出で、藍より青し」と云ふが、子供らしい創作が、時として大人の企て及ばざる傑作であると思ふとき、洵に「楽しみ其中にあり」と喜ばざるを得ない。同時に又、唱歌の教壇に立てるものは、子供として、「誦ひたくてくたまらぬ」と云ふ様に、仕向けることが大切である。「今日は一人宛うたはせるぞ」「順番が来て、うたへない奴には罰を呉れてやるぞ」と云ふ語はせ方の態度は、これ實に教育者の態度でない。因果應報式の昔の獄卒の態度ではあるまいか。

〔歌 詞〕 第一節は、朝起の奨励である。静かな平和な氣持で弱くうたふ。第二節は、手早く機敏にして、時間を大切に、約束を守ることを教へる。第三節は、一生懸命になつて、全精神を傾注して勤勉すべきことを教へる。第四節は、よく學んだ後には、面白く愉快に遊んで、心身の強健を圖ることの大切なことを教へる。

〔歌 謡 法〕 導令體の唱法をとる。即ち、或る一兒童を次々に選んで置いて、導令者とする。即ち「時計が鳴つた」だけを、其兒童にうたはせて、後は全部又は一部分の兒童の齊唱とする。

有所權作著



昭和七年一月十五日印刷
昭和七年一月二十日發行

定價 貳圓八拾錢

著 者	山 本 正 夫
發 行 者	東京市神田區小川町一 鈴 木 省 三
印 刷 者	東京市小石川區戸崎町九四 土 屋 弘

社 會 式 株 刷 印 央 中

發 兌 東京市神田區小川町一
振替東京八一二七七番 人 文 書 房

大賣捌所
東京・東京堂・東海堂・北隆館・文徳堂・福屋書店
大坂・柳屋書店・名古屋・川崎書店・佐賀・大野書店
京都・京都書肆株式會社・久留米・金文堂